花火を身近なものに

5月17日の午後、西浦小学校の校庭で、いろんな「星」（火薬を丸めたもの）に火をつけて色や燃え方の違いを生徒に説明する加藤さん。赤、青、瞬くもの、生徒たちが時には歓声を上げて真剣に注目している。平成23年から毎年、スターマイン総合学習として市内小学校の生徒に花火の構成を考えてもらう授業を行っている。子どもたちに花火を身近に感じて欲しいという啓発活動だ。グループに分かれた生徒たちは、「流れ星」「輝く個性」などテーマを決め、それを表現するために花火の種類・順番・構成を考える。蒲郡まつりで自分たちが考えた花火がその通りに打ちあがる体験は、一生の感動として心に残るだろう。

星の代わりにビー玉をつめる様子を熱心に見つめる小学生たち

三尺玉を上げる筒の前で、加藤さん夫妻（左）と「点滅2.0」開発者の横田さん（右）

花火裏話

・地上と上空では環境が違うため、開発中の花火を打ち上げることもあります。第１・３金曜日の夜に市内で「テスト打ち」を実施するので、運が良ければオフシーズンでも花火を見ることができるかも。

・花火は真下からから見たらキレイ？答えはノー。打ち上げ現場では爆発音も凄まじく、上を向くと燃えカスや紙くずが降って来るので目を開けられない状態になります。また、線を描く花火は近すぎると一瞬光るだけで何が起こっているのかわかりません。

・三尺玉に点火して打ちあがるまで 90 秒。直ぐに船に乗って離れます。早く逃げなくては！と思いながらも、ちゃんと打ち上がるだろうか？という不安もあり、とても長い時間に感じるそう。